

2025年度 第2回 佐鳴台小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 2025年6月19日（木） 14時30分から16時10分
- 2 開催場所 佐鳴台小学校 会議室
- 3 出席委員 野嶋 京登、本間 健太、大西真理子、嶋津 歌絵、辻 博康、山下さおり
羽広 雄太、
- 4 欠席委員 橋本 博行、
- 5 オブザーバー 諏訪部高央（佐鳴台協働センター）
- 6 学校支援コーディネーター 結城 真澄、待井 香世
- 7 学 校 染葉 泰伸（校長）、古橋 智一（教頭）、森本 智子（主幹）
鈴木 史恵（CS 担当教職員）、朝倉 君江（CS ディレクター）
- 8 教育委員会 清水 遥（教育総務課）
- 9 傍聴者 なし
- 10 会議録作成者 CS ディレクター 朝倉 君江
- 11 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、会長から羽広委員を推挙する旨の発言があり、全員意識なくこれを承認した。

12 協議事項

- （１）運動会の子供の様子について
- （２）本年度の重点「つながる力」について

13 会議記録

司会の鈴木から、委員総数8人のうち7人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（１）運動会の子供の様子について

議長の指示により、運動会の子供の様子について意見を求められ、委員からは、以下の発言があった。

- ・運動会終了後、泣いている子がいた。泣いている理由はわからないが周りの子が声を掛けていて、感動した。勝負だけでなく、周りとのつながりも得られるものだなと思った。全体を通しては全員で協力して運動会を作り上げているという一体感を感じた。（野嶋委員）
- ・来賓席近くのレインボークラス席で座ってうずくまっている子がいたから声掛けをした。お友達とぶつかってしまい「僕は悪くないのに」と。保護者で声掛けをしてくると良いなと思った。（嶋津委員）
- ・中学生が観に来るのが特別。ダンスのリサ先生に会いに来るのが恒例のようにになっているのが良いと思う。わが子が途中から腹痛を訴えたが、最後までやらせた。病院へ連れて行くとウイルス性の胃腸炎だった。わが子でも見抜けないのにほかの子の様子をどう見抜くのか難しい。見守りでの課題。（辻委員）

協議の結果、全員意識なくこれを承認した。

(2) 本年度の重点「つながる力」について

議長の指示により、教頭から、改めて「学校運営協議会の委員で話し合う方向性について」確認及び「4つのつながる力」について説明があった。

今回は、本年度の重点「つながる力」についてワークショップ形式で行い、委員からは、以下の発言があった。

- ・浜松まつりでラッパをやっている子が、別のPTAのイベントに参加し声をかけてくれた。(野嶋委員)
 - ・ボランティア活動の多様化。様々なボランティアチームが生まれ、様々な人につながる。(大西委員)
 - ・運動会で卒業生が応援に来たり、学年を超えて少年団の仲間の応援をしたり、大人も子供もつながっていると感じた。(辻委員)
 - ・キャリア教育で外部講師とつながり、スポーツを通して他校生徒とつながる。(羽広委員)
 - ・つながる順番が大事。自分を知ること、学校へ行けること、一日過ごせること、大勢で過ごせることが素晴らしい。(山下委員)
 - ・楽学発表会で自己を見つめ、自分の調べたいこと伝えたいことをまとめて発表することで、自己理解、自己管理で自分とつながる。友達の発表を聴き、他者とつながる。(大西委員)
 - ・日常的に世代間交流が少ないと思う。新興住宅のため結束力が弱い。(野嶋委員)
 - ・親や先生や友達以外の第三者とのつながりがうすい。(本間委員)
 - ・子供も親も忙しく、土日に遊べない。子供だけで安心して公園に遊びに行かせられない。(本間委員)
 - ・学校・家庭・地域の壁をなくすことが「つながる」ではないか。「佐鳴台住民」のつながりをどうすれば良いのか？というイメージ。(本間委員)
 - ・三者にわけないで、既存にあるものでつながる力を強くしていけると良い。(野嶋委員)
- 協議の結果、全員意義なくこれを承認した。

その他報告事項等

- ・本年度のさなレンジャーの募集状況は、全体で641人の参加希望があった
- ・4～6月の学校支援活動について
- ・次回は、令和7年12月10日(水)に開催予定
(12月では期間が空きすぎるので、1回追加する可能性あり)